

## 知っておきたい子どもたちのネット利用の現状

一般社団法人セーフティネット総合研究所  
専務理事 博士(学術) 南澤 信之

### 1 子どもたちのネット利用の現状

家庭の無線LANやコンビニ、公共施設でのWi-Fiの普及により、無線で接続できる環境下において音楽プレーヤー(ipod-touch, WALKMAN)やゲーム機(DSi, 3DS, PSP, Wii u)など、携帯電話やスマホ、PC以外の端末から自由にインターネットに入っている現状にあります。

子どもたちが犯罪やトラブルに巻き込まれた事案の9割はこのような音楽プレーヤーやゲーム機からです。また、スマホでもこの無線(Wi-Fi)を利用した事案がほぼ全てです。

子どもたちは、音楽を聴いたりゲームを楽しんだりしているのではなく、インターネットを利用して他人とのコミュニケーションを行っているのが実態です。

### 2 子どもたちのネットトラブル件数

昨年1年間で、県内の小・中・高校で支援が必要とされるトラブルは、225件ありました。本年度は6月末で、対昨年度比で1.4倍発生しております。警察の出会い系における児童の検挙数もすでに4月現在で、昨年1年間の検挙数を超えた状態にあります。LINE等のSNSが出会い系に悪用された事案も多発しております。また、安易な動画の投稿や記述によるトラブルも多発しております。

### 2 子どもたちの利用サイトでトラブル事案の多い6大サイト

#### ① LINE

IDの検索許可をONの状態にしてあったり、友達の自動追加機能をONの状態のままにしていたり、タイムライン・ホームの公開設定をしていなかったりすることで、他人に自分の情報やグループのやり取りがつつぬけになることで、いじめや見ず知らずの人と出会ってしまうトラブルが多く発生しています。また、自分たちのやり取りが知らない間に他県の学校まで回っていくといった事案も発生しております。LINEは未成年者利用について親権者または法定代理人の同意と管理の下に使用することになっています。必ず利用規約や保護者様へのメッセージを読んで、しっかりと「設定」を行った後、利用についての約束事や留意点について子どもと話してください。

#### ② Facebook

電話を持たない子どもたちは、LINEを利用するためにFacebookを開設するケースが多くみられます。したがって、Facebookの設定を何もしないことで、すべてが公開状態となっている状態が多く、プライバシー情報が公開されていたり、LINEと連動したりすることで、見ず知らずの人との接触事案が多く起きています。

また、「いいね！」ボタンの意味を知らずに、クリックすることで、友人の個人情報を不特定多数に広めてしまった事案もあります。LINE同様保護者の管理の下にしっかりと設定してください。

#### ③ いつのまに交換日記

3DSやPSPなどのゲーム機では、最初からインストールされている場合もあり、小学生あたりからかなり利用されているLINEのような交流サイトですが、LINEのIDと同じようにフレンドリーコードで直接相手と連絡が取れる仕組みになっています。一般のパソコンからも見ることができ、見ず知らずの人と出会ってしまう被害事案も多く発生しています。また、安易な書き込みからいじめに発展したケースなども多発しており、さらにゲーム感覚で危ない書き込みも多くみられます。現在、パソコンからも簡単に見られますので、保護者の方はどのような状況か確認してください。

## ④ YouTube

ゲーム機や音楽プレーヤーには、カメラ機能がついています。子どもたちは、安易に面白半分で違法動画を撮影したり、非違行為を撮影して、簡単に投稿してしまう事案が多発しています。投稿だけでなく、そのような行為自体についてもしっかりとみていく必要があります。

## ⑤ アメーバ (ブログ)

友達しか見られないサイトでは、プライバシーに関する書き込みや人を誹謗中傷する書き込み、非違行為の暴露等が安易に書き込まれています。子どもたちは、自分たちしか見ないと思い安易に書き込みをしていますが、ある条件下でそれが見ることができたり、誰かがオープンにすることで公然にさらされたりして、トラブルが発生しています。どのようなサイトであってもネットを利用している以上、だれが見ているかわからないという意識とともに、このような利用はしないことを子どもと約束する必要があります。

## ⑥ tweeter

簡単に書き込みをしていますが、原則公開です。自分の書き込みを削除しても、見ている人が非公式サイトから複製したり、また引用をされたりした場合には、削除することができません。安易な書き込みが自分で削除後、全く知らないところで広がってしまい問題となった事案が多く発生しています。

## 3 自分ではやめられない SNS、ネットゲーム

LINEのようなSNSやネットゲームの場合、複数の友人と常につながっている状態にあります。いくら自分でやめたくとも、自分一人で抜けると、後どのような書き込みをされるのか、いじめにあうのではないかと不安に思い、ずるずると長時間利用が続いてしまいます。20分席を離れた生徒が実際に中傷されたトラブルも複数あります。少なくとも、グループや家庭間で時間制限を設けることが必要です。

## 4 自分で考えることをしない 短絡的行動に走る子どもたち

Wi-Fi (無線で接続できる) 環境下で、音楽プレーヤーなど身近な端末から常にネットに入っている子どもたちは、疑問に思ったことなど安易にネットで検索します。本来、身近な大人に相談しなくてはならないことまでもネットに答えを求めています。

危険な行為や非違行為を起こした子どもたちは、そのようなネット情報をそのまま真似した行為を行ってしまっています。立ち止まって考える時間や冷静に考える時間を持たないことで短絡的に模倣してしまう危険性があります。

## 5 ネット上の知り合いとであってもいい7割

昨年 (2012年)、校長会でのアンケート結果では、インターネットを利用している子どもたちの約7割が、ネット上で知り合った人と実際にあってもいい、と回答しています。相手がどのような人かもわからず、ただネット上でのやり取りだけで安易に出会ってしまう危険性があります。特に長期休業やイベント終了後など心配です。子どもが今、誰とつながっているのか、誰と会っているのか、何処にいるのかなどを保護者として知っておく必要があります。

## 4 健康被害

携帯電話だけでなく、無線でつながるインターネットの端末は、少なからず微弱電磁波が出ております。たとえ健康に影響がない範囲であっても、長時間・長期間続けていると心配です。また最近では、ブルーライトによる心配がクローズアップされています。パソコン、ゲーム機、音楽プレーヤーも含めて、このような画面を見続けることによる心配を医学的にも睡眠障害による体調不良や精神過敏による障害も言われています。我々大人も仕事において厚生労働省の労働安全衛生ガイドラインでこのような画面を見続ける仕事の場合、1時間やったら10~15分休憩することとなっています。発達過程の子どもたちにも、利用時間の制限などを身近な大人として気にする必要があります。

## 5 「聴く」ということ

「聴」という漢字は、「耳」に「十」分な「目」と「心」でできています。人と話をするときは、昔から顔を見て話をしましょう、と言われてきました。その言葉の通り、会話というのは、ただ言葉を音として聞くのではなく、相手の表情を見ながら、その言葉に表現された相手の心を自分の五感をフルに発揮してくみ取ることなのです。いわば心のキャッチボールなのです。

現在、子どもたちに足りないことは、この「聴く」という力だと思います。やれと言ってできるものではないのです。普段の生活の中で培っていくものだと思います。身近な大人として、この「聴く」ということを子どもに意識させて会話をしてほしいと思います。

## 6 心でつながる

子どもたちは、LINEのようなSNSやメールなどのネットを利用した文字のやり取りについて、「本音が言える」「気楽」といったことを主張します。本来、話をするということは、相手の顔や表情を見て、相手の受け取り方を気にしながら話をします。すなわち、相手の心の思いをくみ取りながらつながっています。SNSやメールでは、相手の顔が見えません。だから自分の思い込で物事を話しますので、当人にとっては、楽ですし、相手の直接的な反応を気にすることをしませんから自分の思いだけを記すことができます。ですから自分の思い込みがすべてとなり、誤解を生むトラブルが多発するのです。

インターネットなどの回線でつながっているとことが本当に人とつながっていると子どもたちは錯覚をしてしまいます。回線でのつながりは、停電になればつながりません、震災のような状況下では電波も届きません。まして、いやだな、と思えば、簡単に切ることができます。人と人がつながるといことは、「心でつながる」ことなのです。「心」でつながっていれば、どんなことがあっても相互に気遣い、手を差し伸べます。回線でつながるのではなく、「心」でつながる重要性を身近な大人として子どもたちに伝えていっていただきたいと思います。そして、子どもたちが一人でも多く心でつながる友人を作ることができるよう願っています。

## 7 ブレーンをもって

身近な大人としてできることは、我々大人が先人から教えていただいた「生きる」ということ、生活の上での様々な教えを子どもたちに伝えていくことです。

インターネットなどの新しい技術革新などは、日々変化してついていくこと自体が難しくなってきました。保護者としてすべてを把握することは厳しい時代です。これはインターネットに限定したことなく、社会の変化でもあります。そうした際、すべてを把握することは不可能です。

ですから、自分にとってのブレーンを持つことが重要なのです。自分のわからないことを、この場合はこの人に、こちらの場合はこの人に・・・といったように、そのことに精通したブレーンを持つことが重要なのです。

一家の出来事は、その家庭だけの問題ではないのです。どこの家庭にも起こりうることなのです。PTAとしての横の繋がり、子どもの友人の家庭とのつながり、そして一番大事なものは、学校とのつながりです。

学校は、様々な分野の専門家とつながっています。

どんな些細なことであっても学校に相談してください。

学校が保護者にとってのブレーンなのです。